

# 教室だより

佐渡市立金井小学校  
佐渡ことば・こころの教室  
平成30年1月29日  
第841号

〒952-1209 佐渡市千種丙 178 番地 1

TEL: 0259 (63) 4156 (直) 4115 (代) FAX: 4117

<http://kanai-es.sado.ed.jp> E-mail: skotoba@sado.ed.jp



雪がたくさん積りました。雪解けや春の訪れが楽しい今日この頃です。

数年前に桃の種を蒔いたところ、その中のほとんどが芽を出し、育っています。昨年初めて花が咲きました。小さな実のようなものもついたらけれど、いつの間になくなってしまいました。今年は…どうなるか、とても楽しみです。

## あなたは「言霊」を信じますか

佐渡市教育委員会  
教育長 渡邊 尚人

言霊（ことだま）とは、一般的に日本において言葉に宿ると信じられた霊的な力のことと解されています。私は言葉には力（エネルギー）があると信じています。

例えば「ありがとう」と言われると、何か温かい、勇気づけられるような気持ちになります。反対に「めんどくさい」「うざい」と言われると、どんよりした気分になり、もうこれ以上の話をしたくなくなります。それが言霊と言われるものではないでしょうか。

私は日頃から「ありがとうございます」というように心がけています。また、困り事や相談には「心配ないよ」「大丈夫」「きっと上手くいくよ」「やってみよう」と励ますようにしています。

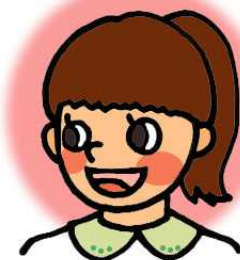
私自身にもまだまだハードルは高いですが、これからも、「運がいい」「幸せだ」「ありがたい」を口癖にし、弱気の際は「強気！強気！」と、怒りを感じたら「許す」と口に出し、人生をプラス思考で過ごしたいものです。皆さんも是非、試してみてください。

## 「好きだよ…」と伝えたい

「先生！最近怖くなったよお」「俺を見る先生の目が冷たくなった」生徒に言われてドキッとした言葉です。

自分では全く自覚していませんでした。でも、自分でも気づかないところで、どこかその生徒たちのことを疎ましく思っている自分がいたのかもしれない。わたしは、とっさに「ごめんね」「わたしは実はきつい性格なんだよ」「自分でも気づかないうちに、そのきつい部分を出してしまっていたのだと思う」と正直に過去の自分のことを話しました。そして、最後につけ加えました。「みんなのことが大好きだよ…」と。

指導で大切にしていることのの一つが、その生徒に好意を言葉で伝えることです。「〇〇さんの…なところが好きだなあ」「いいなあ□□さんは…で」などと、くり返し伝えるようにしています。口先ではなく、自分が心から感じていることを伝えるようにしています。そういう心の安心感こそが、生徒の成長につながる第一歩だとわたしは思うからです。（萩野）





## 難聴研修を行いました

当教室では昨年度に引き続き今年度も3回、難聴児童生徒への指導研修会を行いました。講師は、元県立新潟聾学校通級指導教室担当の斎藤美津子様でした。

3回目は1月19日（金）に行いました。午前は、同じテーマで話し合いたい職員同士でグループを作り、児童の実態をもとに今後の指導の構想や教材を考える活動を行いました。前に当校難聴通級指導教室を担当されていた本田美佐子先生にもグループに入ってくださいました。難聴児への言語指導、漢字が苦手な子どもへの支援方法、支援が必要な家族にかかわる関係者の連携など、四つのグループに分かれました。最後に、各グループで話し合ったことを発表して意見交換を行いました。斎藤先生や本田先生から実践できる具体的なアドバイスをいただきました。また、職員間で良い指導方法を共有していくことの大切さも感じました。

午後は、「相談を担当する立場の人間が〈大変な子〉の親になって感じたこと」というテーマで斎藤先生からお話をうかがいました。お話から、困り感をもつ子どもに対する支援として「環境を整える」ことの大切さを再認識することができました。「環境」というのは場所はもちろんですが、かかわっている大人の理解や寄り添う気持ち、言葉掛けも「環境」だと感じます。「焦らない、けれど諦めない」の気持ちをもって子どもたちにかかわりたいと思いました。

お話の後に、難聴のある中学生に英語の指導を直接していただきました。「予習することで授業が分かりやすくなる」と、前回アドバイスをもらい、実践した生徒は、その通りだったことを実感できていたようで、とても良い表情を見せていました。

斎藤先生が子どもたちの気持ちに寄り添い、温かい言葉をかける姿は支援する立場として学ばべきことが多くありました。3回の研修で学んだことを日々の指導に生かし、子どもたちのより良い支援につなげていきたいと思えます。

